



No. 44

20 January 2020

日本ホスピス緩和ケア協会

NEWS LETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所内

TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website <https://www.hpcj.org/> E-mail info@hpcj.org



新春メッセージ

今こそ戦略と戦術が必要



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 志真 泰夫

年頭にあたり、会員の皆様に新春メッセージを送ります。

今年は、診療報酬改定（2020年4月）が行われます。すでに緩和ケアに関連する改定のポイントが中央社会保険医療協議会（中医協）で示されています。

1. 患者や家族の意向に沿いつつ地域との連携を推進する観点から、緩和ケア病棟入院料について要件の見直し
2. 進行した心不全の患者に対する緩和ケアを評価する観点から、外来緩和ケア管理料について、対象となる患者等の要件の見直し
3. 緩和ケア診療加算及び有床診療所緩和ケア診療加算について、末期心不全の患者を対象とする場合の要件の見直し
4. 緩和ケア診療加算について個別栄養食事管理加算の対象患者の要件の見直し

当協会の注目点は、2018年度改定（以下、前回改定）に引き続いて行われる緩和ケア病棟入院料の要件見直しです。また、進行した心不全への対応も必要になってきています。

入院料改定の影響

前回改定の結果、緩和ケア病棟入院料は3基準（平均在棟日数、入院待機日数、軽快退院患者の退院率）によって「緩和ケア病棟入院料1」または「2」に分けられることとなりました。これを受けて、緩和ケアデータベース委員会が改定前後の利用状況の変化と改定後の利用状況と施設概要を入院料1・2の算定施設間で比較・分析したところ、次のような結果となりました。

1. 利用状況の分析では、入院料1の算定施設で平均在棟日数の短縮、利用患者数の増加、自宅退院の増加がみられ、地域の患者の緩和ケア病棟利用の増加につながった
2. 「入院料1」と「入院料2」の施設概要の比較では、外来フォローアップ体制、病院規模、精神科医や心理職の利用可能性などで有意な差がみられた

医療・介護保険委員会の2018年度アンケート調査では、入院料1・2に伴う弊害（職員の精神的負担の増加、在棟日数の短縮によるケアの質の低下、無理な退院調整など）も指摘されています。一方、入院料1・2に分けることで病棟の役割が明確になった、という意見もあります。

地域連携の視点が必要

4月の診療報酬改定に向けて、緩和ケア病棟の運営に携わる方たちは、もう一度地域における自施設の役割と人員や職種、緩和ケアチーム、外来等の仕組みを見直して、戦略を立てる必要があります。さらに、地域で「緩和ケア診療加算」「外来緩和ケア管理料」「在宅緩和ケア充実診療所・病院加算」を届け出ている施設との連携を一層密接にしてゆく努力も求められます。

APHC2021に向けた準備状況

当協会の「連携・国際交流」の大きな事業として、APHC2021に向けた準備活動について報告します。国内の組織委員会は4回開催され、学会等の15学術団体の後援が決まりました。カンファレンスの日程について、2021年11月10日（水）：3つのワークショップを含むプレカンファレンス、11日（木）から13日（土）：6つのplenary、15のセッションが企画されています。参加費は、事前登録の場合、医師（33,000円）、医師以外（23,000円）1日参加の場合、医師（15,000円）、医師以外（12,000円）となります。詳細な情報は、これから開設するホームページに掲載します。どうぞ、今のうちから2021年11月10日～13日の予定を確保するようにお願いします。

2020年度年次大会は 神戸 で開催いたします！

日時 2020年 7月 18日(土)
19日(日)

会場 神戸国際会議場
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1
<https://kobe-cc.jp/ja/>
懇親会：神戸ポートピアホテル

1日目
7月 18日(土)

- ◆13:30～14:30 総会
- ◆14:45～17:00 パネルディスカッション
「家族・遺族の声を聴く」
- ◆17:30～19:30 懇親会



2日目
7月 19日(日)

- ◆分科会 9:00～12:00
テーマ
 - ◇緩和ケア病棟の質の確保を考える
 - ◇新任管理者のための緩和ケア病棟運営：
一般病棟との違いを踏まえてのマネジメント
 - ◇在宅緩和ケアに関する分科会(テーマ検討中)
 - ◇インターネット遺族調査：
パイロットスタディの報告および具体的な運用方法
 - ◇関係性が築けない患者さんに出会ったらどうしますか？
～評価と対応について考える～
 - ◇専門的緩和ケアを担う看護師のコンピテンシーを高めるための取り組み
- ◆特別企画セミナー 13:00～16:00
 - ◇緩和ケア病棟運営管理者セミナー(対象:緩和ケア病棟の運営管理者)
「緩和ケア病棟の理想と現実」
 - ◇MSWセミナー(対象:ホスピス・緩和ケア領域専従のソーシャルワーカー)
「単身者の療養・看取りを考える」
 - ◇SPACE-Nフォローアップ研修(対象:SPACE-N修了者)

・申し込み方法や各プログラムの詳細は、4月上旬にご案内いたします。プログラムは変更となる場合があります。

神戸国際会議場へのアクセス

●飛行機

- ・神戸空港→ポートライナー[市民広場駅]
【約10分】
- ・関西国際空港→高速艇ベイシャトルで
神戸空港→ポートライナー[市民広場駅]
【約50分】

●新幹線

- ・JR[新神戸駅]→市営地下鉄[三宮駅]→
ポートライナー[市民広場駅下車]
【約20分】
- ・JR[新神戸駅]からタクシー【約20分】

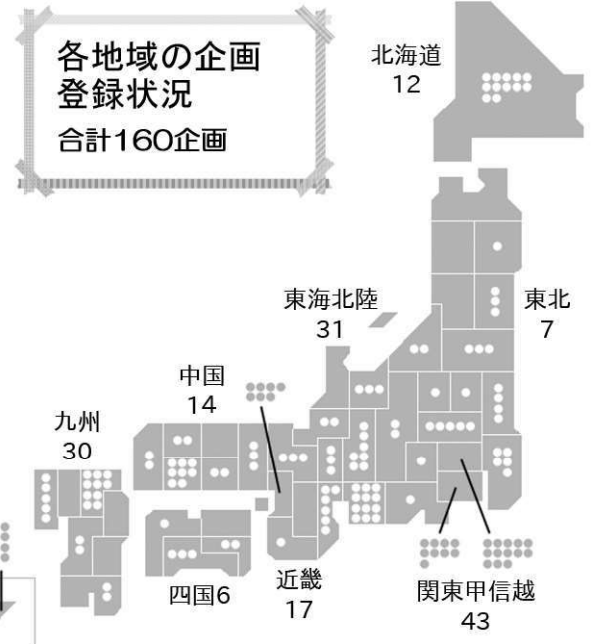
日本ホスピス緩和ケア協会では、「世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice and Palliative Care Day)」を最終日とした一週間(2019年度は10月6日～12日)を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示及びセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいます。

第14回目となった本年もポスター・チラシを作成し、協会会員をはじめ、がん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会会員、日本死の臨床研究会会員など全国の関係者に企画の開催を呼び掛けました。また、緩和ケア関連14団体の後援を得て広報にご協力いただき、160の企画登録がありました。

今年度は、一般の方を対象としたACP(人生会議)や在宅での看取りに関するセミナーが多数開催されました。また、ウィッシュツリーを置いて患者さんや来院者、医療従事者に願いごとを書いてもらったり、マッサージを受けながら相談できるコーナーを設けるなど、多くの人に立ち寄ってもらえるよう工夫された企画も多くみられました。

折り悪く台風と重なり、中止・延期となった企画もありましたが、市民や医療福祉関係者など7,900名あまりの参加がありました(展示会の参加者は含まず)。

参加施設からは、「緩和ケアへの一般の方々の関心の高まりを感じ、イベント開催を継続してきた意味をスタッフ間で共有することができた」といった報告がありました。



当日の様子

各企画より提出された写真の一部をご紹介します。

北海道



病棟ラウンジ講演会
【勤医協中央病院】

宮城県



専門職(栄養士)による講話
【宮城県立がんセンター】

埼玉県



緩和ケア紹介コーナー
【埼玉県立がんセンター】

千葉県



パネル展示とねがいの木
【辻仲病院 柏の葉】

東京都



パネル展示・講演・見学ツアー
【清瀬・東久留米緩和ケア週間実行委員会※】

神奈川県



ACPをテーマとする寸劇
【日野原記念ピースハウス病院】

※ 東京病院、信愛病院、複十字病院、訪問看護ステーションほほえみ、東久留米白十字訪問看護ステーション、東久留米なごみ内科診療所、NPO法人緩和ケアサポートグループ、東久留米市在宅療養支援窓口 による共催

World hospice & palliative care day



左上:イギリス、右上:インド、左下:オーストラリア、右下:シンガポール
(緩和ケアデーに企画登録している各国の団体ウェブサイトの報告より)

世界のホスピス緩和ケアデー

2019年度の 世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice and Palliative Care Day) は「My Care, My Right.」をテーマとして実施されました。

各国の企画の様子は、下記ホームページでご覧いただけます。

<http://www.thewhpc.org/world-hospice-and-palliative-care-day>

新潟県



市民公開講座
【JA新潟厚生連 新潟医療センター】

富山県



院内ロビーでの啓発活動
【南砺市民病院】

岐阜県



多職種インタビュー掲示
【中濃厚生病院】

愛知県



市民まつりでの健康相談
【剛鍼灸治療院】

三重県



医療従事者対象のセミナー
【南勢地域緩和ケアネットワーク】

大阪府



ホスピタルアート体験
【大阪府済生会中津病院】

大阪府



市民向けシンポジウム
【厚生労働省・日本緩和医療薬学会】

兵庫県



ほのぼのコンサート
【市立芦屋病院】

広島県



ご遺族による在宅看取り体験談
【安芸市民病院】

高知県



コンサート
【高知厚生病院】

福岡県



市民対象の健康フェア
【JCHO九州病院】

鹿児島県



緩和ケアチームによる演奏
【霧島市立医師会医療センター】

沖縄県



治療と仕事の両立支援相談
【沖縄協同病院】

企画内容

① 一般市民向けの講演会・フォーラム等	65
② 医療従事者向けのセミナー・研究会等	21
③ ホスピス緩和ケア関連のパネル展示	80
④ チラシ・パンフレット等の配付	48
⑤ 緩和ケア相談コーナーの設置	47
⑥ コンサート・演劇等	34
⑦ 緩和ケア病棟の見学会	28
⑧ 体験・試食コーナー等の設置	28
⑨ ホスピス緩和ケアに関する動画の上映	12
⑩ お茶会・がんサロンの開催	15
⑪ 遺族会・他病棟との職員懇親会等	9
⑫ その他（作品作りなど）	11

合計 398

※1つの企画内で複数のイベントを開催した場合はそれぞれをカウント

参加者内訳

一般市民／患者（入院・外来）／家族／遺族／学生（医学生・看護学生・薬学生）／教員／医師／看護師／看護助手／薬剤師／臨床心理士／社会福祉士／ソーシャルワーカー／相談員／管理栄養士／臨床検査技師／理学療法士／作業療法士／救急隊員／保健師／ケアマネジャー／介護支援専門員／歯科衛生士／介護福祉士／介護士／音楽療法士／メディカルアシスタント／事務員／チャプレン・僧侶／ボランティア／民生委員／保育士 他

合計：7,909名（人数不明の報告・展示会来場者は含まず）

企画参加施設種別

協会会員 103施設 / 会員以外 46施設

【協会正会員】内訳

緩和ケア病棟	… 89	緩和ケアチーム	… 7
一般病院	… 5	診療所	… 1

【準・賛助会員】 … 1

【会員以外】内訳（学会：日本緩和医療学会、研究会：日本死の臨床研究会）

がん診療連携拠点病院	… 8	学会会員	… 15
学会会員・拠点病院	… 6	学会・研究会会員	… 5
学会会員・研究会会員・拠点病院	… 4		
不明（無記入）	… 8		

※複数の施設が1つの団体として主催している場合は、代表施設のみを参加施設とした。

2020年度

世界ホスピス緩和ケアデー & ホスピス緩和ケア週間

2020年度の「ホスピス緩和ケア週間」は、「世界ホスピス緩和ケアデー」を最終日とした、10月4日(日)～10月10日(土)の一週間を予定しています。詳細については、8月頃にご案内いたしますが、皆様には引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通じた啓発・普及活動にご協力下さいますよう、お願い申し上げます。



2019年11月23日、ステーションコンファレンス東京にて第31回理事会が開催されました。事務局より、2019年7月開催の総会以降の入退会状況と、ホスピス緩和ケア週間の実施報告、各専門委員会からの活動報告、また、APHC2021の進捗状況について、今後の協会のあり方と役員改選について、2020年度の年次大会プログラム等について話し合われました。以下に、各委員会の活動状況をご報告いたします。

専門委員会活動

◆認証委員会

- ・3月に実施した認証制度に関するアンケート調査では、回答施設の内7割が今後も申請すると答えた。
3つの認証基準については、9割以上の施設から適切という回答を得ており、一般の人へ審査結果を公開しても良いと回答した施設も9割以上あるため、認証制度に関するQ&Aなどとともにホームページに掲載できるよう、公開の準備を進めていきたい。
- ・一方で半数近い施設が認証申請をしておらず、今後も呼びかけていかなければならないと思う。
- ・現在、申請を2年に一回としているが、2年では認証期間が短いので、2020年秋に認証申請を受け付ける際は、認証期間を3年とし、次々回は2023年の受け付けとする。

◆緩和ケアデータベース委員会

- ・2019年実施の施設概要調査の結果は、既にウェブサイト上で報告している。2020年度の調査項目は大きな修正はしない。在宅ケアに関しては、在宅緩和ケア委員会の発足後、再検討していきたい。
- ・インターネット遺族調査は、パイロットスタディの報告書が出来上がり、来年の年次大会で説明後に本格実施させる方向である。施設用と管理者用のマニュアルも作ってある。
- ・ネット調査の特徴として、自由記載の記載内容がとても多い。かなり具体的な意見が書かれているので、参加施設の質改善に生かせるのではないかなと思う。J-HOPEに比べて回答率は下がるが、施設が実施したいペースで実施できるので、多くの意見を吸い上げるきっかけになる。
- ・管理画面では、自施設の結果が自動的にグラフ化できるようになっているので、委員会として調査結果の活用の仕方を示していきたいと思っている。

◆質のマネジメント委員会

- ・緩和ケア病棟入院料が1と2に分かれたことへの対応として、「緩和ケア病棟の基準」を作り、スタンダードを示していた。しかし、支部大会における意見交換の様子から、ほとんどの施設で入院料を取るために平均入院日数を30日以内にするのが目標となっており、その達成のための入退院調整を行うことに疑問を感じていないスタッフが多いことが分かった。
そこで、自施設評価の項目の見直しを行い、病床運営に関する評価項目として「個々の患者家族の

状況を考慮した退院調整を行っているか」という項目を入れ、どのような結果が返ってくるかを見たいと思っている。

- ・近畿支部師長会では参加者の3分の2が新任の師長で、病棟のことも協会のこともよく分からないので参加したという方が多かった。2014年発行の緩和ケア病棟運営の手引きを全面改定する形で、緩和ケア病棟の師長の役割や一般病棟との違い、協会がどのような団体なのかを示す新たな手引きを2020年度の年次大会で発行したいと考えている。

◆多職種教育支援委員会

- ・多職種教育に関する分科会の配布資料をウェブサイト上に期間限定で公開しているが、昨年までに作ったプログラムも併せて通年掲載していけるよう準備を進めている。また、以前の教育研修委員会で作られた教育セミナー等の資料も公開していく。
- ・2019年度のMSWセミナーでは、診療報酬の改定によってMSWが業務にジレンマを抱えているのではないかと考えグループワークをしたところ、緩和ケア領域に長くいるMSWと新しいMSWとのジレンマの温度差が大きかった。改めてソーシャルワークの価値や倫理を考えなければいけないと思っている。
そこで、2020年度は単身者の方をどう支援していくかに焦点を当てることにした。地域の資源を活用するメリット・デメリットを伝えつつ、MSWの立場について再確認をしたい。

◆看護師教育支援委員会

- ・SPACE-Nは、例年関東と関西で開催しているが、秋田県と山形県の参加者がいないことから、2020年度は宮下理事の協力を得ながら、東北大学で開催する予定で進めている。



- ・現在、SPACE-Nの教育用ガイドの全面的な改定作業を行っている。2020年度の年次大会で受講修了者にCD-ROMで販売する他、大会不参加の修了者にも代金と郵送料の負担で販売できればと考えている。
- ・SPACE-N修了者フォローアップセミナーは、マンパワー不足と予算の都合がある。2020年度は年次大会に合わせて神戸で開催予定であるが、今後についてはその後考えていく。また、対話の進め方について経験則的に分かってきていることを、何らかの形で言語化してまとめるようにしたい。
- ・専門的緩和ケアの看護師のクリニカルリーダーは、ほぼ項目が出揃ったので、デルファイ法により意見を集約し、次回の分科会までにはおおよそのことができる予定である。どのように各施設で活用してもらうのが課題であり、分科会にて内容を説明し、参加者から意見をいただく予定である。

◆医療・介護保険委員会

- ・委員会発足の経緯について委員間で共有し、あり方とその意味について4つのポイントを確認した。
 - ①協会の組織として委員会活動をする
 - ②協会の組織としてのあり方を含めて、社会の中で協会の果たす役割をはっきりと示すための発言を整理し形にする
 - ③医療・介護を含めた形で提言をまとめる
 - ④協会として色々な意見や考え方を伝えるための内容を形にする
- ・委員会の構成については、病棟・在宅に関わる看護職、介護系の人材、緩和ケアチームに知識がある人材に加入をお願いしたいと考えている。他の委員会と政策提言へ繋がる情報の共有を進めたい。
- ・中央社会保険医療協議会（中医協）で示された緩和ケア病棟入院料1、2の算定割合に関する資料に関して、2019年10月、厚生労働省保険局医療へ要望書を提出した。厚労省としては入院料を1、2に分けて施設基準の見直しを考えており、今後、心不全を緩和ケア病棟の対象疾患に入れていく流れや、病棟の人員を含めた構造上の仕組みが変わる可能性もあると思う。在宅緩和ケア充実加算を届け出ている診療所にどう働きかけていくか、緩和

ケア外来を専門外来として位置付けてアピールしていくことなども重要である。

◇緩和ケア外来ワーキンググループ

- ・昨年実施したアンケート結果を冊子にまとめる作業をしている。緩和ケア専門外来は実に多様な形態をとっており、緩和ケア病棟で持っているところ・持たないところ、緩和ケアチームが持っているところ・持たないところ等様々である。
- ・中医協の提案の中に、緩和ケア病棟入院料に緩和ケア外来のあり方を含めてはどうかという文言があり、今後取り上げられるようになると思う。中医協の発表を受けて具体的な対応を考えていきたい。

◆在宅緩和ケア委員会【2020年8月発足予定】

- ・活動目的は下記の七項目である。委員を早急に選定し、優先順位をつけて進めていきたい。
 - ①地域緩和ケアにおける在宅緩和ケアの質の担保と普及を促進する
 - ②在宅緩和ケアの基準を実行するための手順・モデルを作成する
 - ③在宅緩和ケア充実診療所の協会加盟を促進し、情報共有をおこなうとともに、在宅緩和ケア充実診療所の要件について改定案を作成する
 - ④診療報酬や介護保険制度の改定にあたり助言を行う
 - ⑤緩和ケア病棟や緩和ケアチームと在宅緩和ケアの緊密な連携を模索する
 - ⑥介護施設で緩和ケアのバリアーについて検討し、看取り促進に対応する
 - ⑦データベース委員会と共に概要調査等に協力する

以上



ウェブサイトにも求人情報を掲載しています

当協会では、ホスピス緩和ケアに携わるスタッフの充実をはかり、ケアの質の向上を目指すことを目的として、正会員施設の求人情報（医師・看護師・薬剤師等）を、毎月1日・15日にウェブサイトに掲載しています。

掲載を希望する場合は、ウェブサイトの会員専用ページから求人登録票をダウンロードし、必要事項を記載の上、協会事務局まで郵送して下さい。

掲載期間：4ヵ月

（期限前に事務局へ延長希望の連絡があれば引き続き4ヶ月掲載可能）

掲載費用：無料



令和元年台風19号に伴う 会員施設の被災状況について



昨年は多くの自然災害に見舞われた年でした。中でも 9月・10月に相次いで上陸した台風による被害は大きく、未だ困難な生活を強いられている方も多くいらっしゃるものと存じます。

当協会では10月31日、台風19号による会員施設の被災状況把握のため、内閣府の通知で被害が報告されている17都県にある会員施設 182施設へメールを送信いたしました。また、周辺の地域における被災状況や、お困りのことなどがあれば、情報をお寄せいただけるよう依頼いたしました。その結果、10施設より返信があり、その多くは「特に影響はない」との返信でした。

しかし、福島県郡山市の星総合病院より、近隣を流れる川の氾濫により、1階にある緩和ケア病棟が浸水被害を受けたとの報告がありました（下記報告に詳細）。放射線機器なども水没したため、病院全体の診療体制に大きな影響が出たとのことですが、避難を早めに行ったことで患者さんへの被害は全くなく、現在は診療を再開されているとのことでした。

上記の報告を受けて、2019年11月23日の理事会において、被災された会員施設への対応が協議され、2020年1月30日に、志真理事長、松島事務局長が星総合病院を訪問することとなりました。

なお、会員施設周辺の被災状況として、正会員の社会福祉法人 賛育会病院と同一法人が運営する、賛育会 豊野病院（長野県）、宮城県のおおともクリニックでも浸水被害を受けたとの情報提供がありました。近年、地震や台風などの天災による、人的・物的な被害が相次いでおります。皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



▲浸水前の患者搬送の様子



▲浸水した緩和ケア病棟



▲浸水した外来待合室

星総合病院からの被害報告

10月12日深夜から13日未明にかけて当院は台風19号の豪雨の被害にみまわれました。当院は地上4階の建物であり、緩和ケア病棟は1階に位置しています。

深夜0時を過ぎた頃から、建物内に水が浸入し、2時間ほどで膝下まで浸水しました。患者さんは危険を予測し消灯前に上の階に避難しており無事でしたが、患者さんの私物や病棟の備品、さらに家族室、ラウンジやキッチンといった緩和ケア病棟の特徴である設備が大きなダメージを受けました。

しかし、東日本大震災の経験が役立ち、病院は10月14日から通常診療を再開。緩和ケア病棟も1週間後には元の場所で患者さんに療養していただくことができました。沢山のの方々から支援の手や温かいお言葉をいただき、この地域で緩和ケア病棟を継続していく意味や自分たちの役割を改めて認識する機会となりました。

今後も災害対策を十分行いながら、この地域の皆様に必要とされる緩和ケア病棟として頑張って参りたいと思います。

（文責：星総合病院緩和ケア病棟看護師長 久保木優佳）



▲浸水した病院ロータリー

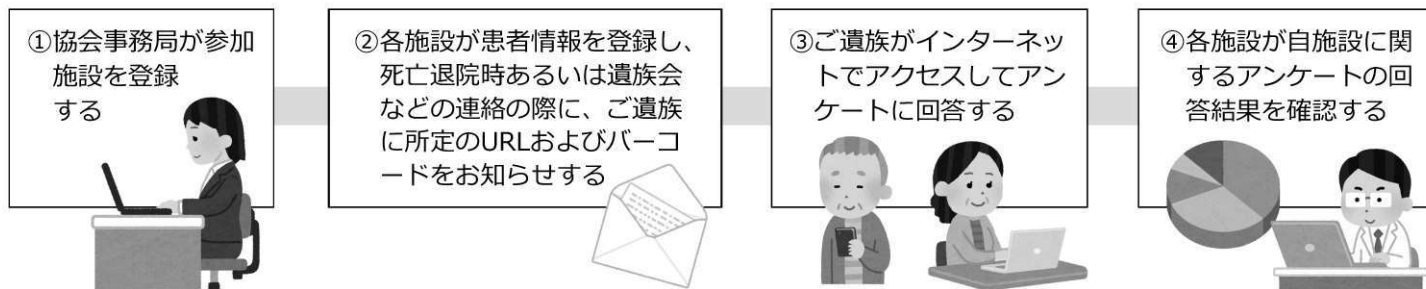
インターネット遺族調査システムの開発

緩和ケアデータベース委員会

はじめに

緩和ケアの質を評価する方法の一つとして遺族調査が広く用いられており、本協会の認証制度の基準にも取り入れられております。本協会の認証制度ではJ-HOPE研究などに参加している施設からの申請が多いですが、J-HOPE研究は4年に1回の実施であり、コストが高い、今後の継続性も保証されていないといった課題があり、各施設が独自の調査することも、調査経験やマンパワーや分析などの限界があります。

それらの課題を克服し、すべての協会加盟施設でいつでも遺族調査ができるように、緩和ケアデータベース委員会では、インターネット遺族調査（以下、ネット遺族調査）システムの開発に取り組んできました。今回開発してきたネット遺族調査システムの流れを簡単に説明すると、次のようになります。



パイロットスタディの結果について

本ネット遺族調査システムが実際に使えるものかどうかを確認するために、本協会に加盟している6施設にご協力いただき、2018年1～3月にパイロットスタディを行いました。インターネットでの調査ということで、回答率がどれ位になるのか、回答者の年齢層がかなり低くなるのではないかな等の懸念がありましたが、回答率は30%程度であり、回答者の背景もJ-HOPE研究とほぼ変わりありませんでした。ネット遺族調査では質問紙による調査に比べて、今後の質の改善に有用な自由回答が多くいただけるような印象を持っています。また、参加した施設も無理なく実施できるという結果でした。パイロットスタディの詳細については、第25回日本緩和医療学会で発表予定ですが、施設にとってもご遺族にとっても有用な遺族調査の仕組みができたと考えています。

回収率30%は低いと感じられるかもしれませんが、いままでのJ-HOPE研究では回収率は50～60%程度でした。4年に1回、1施設あたり80人程度に調査をし、40～50人から回答をいただいていた。これがネット遺族調査となると、4年に1回ではなく、毎年すべてのご遺族にアンケートを依頼することができますので、例えば年間に150人死亡する施設では4年間に600人にアンケートを依頼し、180人程度から回答が得られることになります。今までの4～5倍の方になりますので、より誤差が少ない回答になります。また、4年も間が空くとスタッフの移動などでかなり様変わりすることもあります。この方法だと毎年調査が可能ですので、より、リアルタイムに変化を調べることができます。

今後は、パイロットスタディの結果を元にシステムと調査内容を修正し、マニュアルを作成したうえで本稼働させる予定です。具体的には、2020年7月の年次大会で概要や具体的な使用方法についてお知らせした後、参加希望施設を募り、実際に運用させる予定です。提供しているケアの質を簡便かつ継続的に評価できるシステムとして活用できますので、ぜひ奮ってご参加いただければと存じます。

アンケートへのご回答方法

以下のどちらかの方法で、アンケートに回答をお願いします。もしアンケートに回答しない場合でも以下に沿って操作していただき、回答しない理由をお知らせいただけます。アンケートへの回答には、10分程度を要します。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<方法1>

- 日本ホスピス緩和ケア協会のホームページを開き、「インターネットでのご遺族調査」と書いてあるマークをクリックします。
- 日本ホスピス緩和ケア協会のホームページを開くには、「日本ホスピス緩和ケア協会」を検索するか、URLに<https://www.jpoci.org/> と入力してください。
- パスワードを入れる画面が出てきますので、下記のパスワードを入力してください。
- アンケート画面が開きますので、質問に沿ってお答えください。

<方法2>

- 下記のマークを、スマートフォン等のQRコードリーダーで読み取ってください。

パスワード
0000-0000-0000

個人情報保護の保護について
本アンケートは、「個人情報保護方針」に従い、適正な管理と個人情報の保護に努めて行われます。具体的には、ご回答いただいた内容は、個人が特定されない形で統計的に処理されます。また、ご回答いただいた内容を第三者に提供したり、ご依頼した以外の目的で使用したりすることはございません。

ご遺族への依頼用紙

ご遺族はホームページからアクセスも可能

入会・施設基準届出受理施設について

2019年7月の総会以降、下記の通り入会がありましたので、ご報告致します。

- ★緩和ケア病棟入院料届出受理施設
- ☆緩和ケア診療加算届出受理施設
- ・一般病院、診療所

【正会員：新入会】

- ★TMGあさか医療センター（埼玉県朝霞市）
- ★新潟県立がんセンター新潟病院（新潟県新潟市）
- ★公益財団法人 杏雲堂病院（東京都千代田区）
- ★医療法人社団 柏たなか病院（千葉県柏市）
- ★盛岡友愛病院（岩手県盛岡市）
- ☆京都市立病院（京都府京都市）
- ・医療法人かわな病院（愛知県名古屋市中区）
- ・ホームケアクリニックえん（岩手県北上市）

【正会員：一般病院からの区分変更】

- ★一宮市立市民病院（愛知県一宮市）

【準会員個人：新入会】

- 栞原 宏美（東京都）／ 市川 朋子（石川県）
- 鎌水理恵子（東京都）／ 野村さやか（山口県）
- 加藤三栄子（愛媛県）／ 川村 幸子（千葉県）
- 山口 綾子（東京都）

【賛助会員個人：新入会】

- 山本 花子（北海道）

会員動向（2019年12月20日現在）

地域別	正会員				準会員		賛助会員		合計
	病棟	チーム	一般病院	診療所	法人	個人	法人	個人	
北海道	20	3	2	3	3	6	0	3	40
東北	22	3	2	7	4	2	0	2	42
関東甲信越	99	19	6	22	11	37	4	10	208
東海北陸	43	3	3	4	0	10	0	2	65
近畿	53	6	2	9	3	17	1	2	93
中国	30	1	5	3	2	11	1	1	54
四国	18	3	2	2	2	2	0	1	30
九州	85	4	1	11	1	7	0	0	109
合計	370	42	23	61	26	92	6	21	641
	496				118		27		

ご寄付について

当協会では、事業に賛同し応援して下さる個人や団体からのご寄付を受け付けており、前回報告以降、下記の方々よりご寄付をいただきました。ご厚情に心よりお礼申し上げます。

- ・山本 花子様（北海道）
- ・田中 巖様（東京都）
- ・原 知克様（東京都）
- ・榎本 香咲花様（神奈川県）
- ・匿名希望様（高知県）



なお、ご寄付の方法につきましては、事務局までお問い合わせいただければ、関係資料をお送りいたします。

【直接お振込みいただく場合、振込先は下記の通りです】

三菱UFJ銀行 新富町支店

口座：普通預金 3677396

名義：日本ホスピス緩和ケア協会 理事長 志真泰夫

2020年は緩和ケア病棟における 質向上の取り組みに関する認証制度 の申請受付年です

2020年11月に、緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度の申請受けを予定しています（9月頃、対象施設の連絡担当者へ郵送およびメール配信）。認証を受けるためには、本年実施される下記事業への参加が必要です。

- ◆ 4～5月 施設概要・利用状況調査
- ◆ 9～10月 自施設評価共有プログラム

この他に、第三者による評価を受けている、または自主的な遺族調査を実施していることが要件となります。第三者による評価とは、①「J-HOPE 4」、②「J-HOPE 2016」、③日本医療機能評価機構の行う病院機能評価「副機能（緩和ケア）」または「機能種別版（緩和ケア）」のいずれか1つで、認証申請から遡って5年以内に通知や結果が報告されているものが有効です。詳細は、後日ご案内する予定です。なお、2020年より認証期間が2年→3年間に変更となります。2020年以降の申請受付は2023年となりますので、ご注意ください。

施設概要・利用状況調査の結果を公開

2019年4月、正会員を対象として実施した施設概要・利用状況調査の結果がまとまり、協会ウェブサイトの会員専用ページに公開いたしましたので、ご案内いたします。また、緩和ケア病棟としてご登録の正会員におかれましては、2020年4月に実施する本調査にご回答いただくにあたり、2019年度の入退院患者データを集計するエクセルのフォーマットを下記のページで配布しておりますので、ご利用ください。

<https://www.hpcj.org/khb/pcudata.html>

日本ホスピス緩和ケア協会 ニュースレター No.44

発行日 2020年 1月 20日
発行所 日本ホスピス緩和ケア協会事務局
事務局 〒259-0151
神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1
ピースハウスホスピス教育研究所内
TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382
E-Mail info@hpcj.org
